

チャノホソガに対する各種ネオニコチノイド剤の防除効果			
【要約】ネオニコチノイド剤のチャノホソガに対する防除率は、モスピランSL液剤が91%、アドマイヤー顆粒水和剤が38%となり、防除効果は薬剤間で大差がある。チャノキイロアザミウマやチャノミドリヒメヨコバイに対しては、全ての薬剤で実用的な防除効果がある。			
農業技術振興センター・茶業指導所・茶振興担当		【実施期間】 平成20年度	
【部会】 農産	【分野】 高品質化技術	【予算区分】 県単	【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

チャの重要害虫であるチャノホソガに対して、各種のネオニコチノイド剤が主力薬剤として散布されているが、その防除効果は薬剤によって大きく異なることが現地から報告されている。また、同一薬剤の連用による防除効果の低下も危惧されるため、各種ネオニコチノイド剤のチャノホソガに対する防除効果を、所内ほ場において比較検証する。あわせて、チャノホソガとの同時防除が期待できるチャノミドリヒメヨコバイとチャノキイロアザミウマに対する防除効果も検証する。

【成果の内容・特徴】

- ① チャノホソガに対する各種ネオニコチノイド剤の防除率は、モスピランSL液剤の91.2%からアドマイヤー顆粒水和剤の38.2%の範囲となり、防除効果は、薬剤によって効果が高いものから効果がないものまで、大きく異なる（表1）。
- ② これらの薬剤におけるチャノキイロアザミウマの防除率は、スタークル顆粒水和剤の81.2%から、ワークワイド顆粒水和剤の69.9%までの範囲となり、全ての薬剤で実用的な効果がある（表2）。
- ③ これらの薬剤におけるチャノミドリヒメヨコバイの被害防止率は、バリアード顆粒水和剤の100%から、アドマイヤー顆粒水和剤の87.9%の範囲となり、全ての薬剤で防除効果が高い（表3）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 所内ほ場では過去5年間に、当試験の使用を除いてモスピランSL液剤を年1回ずつ5回使用し、バリアード顆粒水和剤は平成20年のみ1回使用している。他の4剤は5年以上使用していないか未使用である。
なお、ワークワイド顆粒水和剤はスピノエース成分とアドマイヤー成分の混合剤である。
- ② チャノホソガの発生状況は多発生、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイの発生状況は少発生の条件下で実施した試験である。
- ③ 現地での防除指導の参考として活用する。
- ④ 同一系統の薬剤の連用は、抵抗性発達防止のため避けるよう指導する。
- ⑤ モスピランSL液剤については、登録内容の変更が予定されているので、取扱いに注意する。

[具体的データ]

表1 各種ネオニコチノイド剤のチャノホソガに対する防除効果

供 試 薬 剤	希釈倍率	三角巻葉数/m ²			防除率 (%)	効果判定
		反復Ⅰ	反復Ⅱ	平均		
モスピランSL液剤	2,000	16	20	18	91.2	A
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000	148	104	126	38.2	D
スタークル顆粒水溶剤	2,000	96	32	64	68.6	C
ダントツ水和剤	2,000	112	68	90	55.9	D
バリアード顆粒水和剤	2,000	28	16	22	89.2	B
ワークワイド顆粒水和剤	2,000	32	24	28	86.3	B
無 処 理	—	216	192	204		

注) 薬剤は2008年6月10日に散布、巻葉数調査は6月23日に実施した。

注) チャノホソガの発生状況は多発生。

注) 効果判定は、新農薬実用化試験実施要領に基づく4段階評価(以下の表でも同じ)
(A効果高い、B効果あり、C効果低い、D効果なし)

表2 各種ネオニコチノイド剤のチャノキイロアザミウマに対する防除率

供 試 薬 剤	希釈倍率	平均虫数(B5版4カ所)			防除率 (%)	効果判定
		6/10	6/12	6/17		
モスピランSL液剤	2,000	5.5	4.5	1.0	74.7	B
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000	4.5	3.0	1.0	79.9	B
スタークル顆粒水溶剤	2,000	6.0	3.0	2.0	81.2	A
ダントツ水溶剤	2,000	2.0	1.0	1.0	77.4	B
バリアード顆粒水和剤	2,000	2.5	1.5	1.7	71.4	B
ワークワイド顆粒水和剤	2,000	5.5	4.0	3.3	69.9	B
無 処 理	—	2.3	5.7	4.7		

注) 薬剤は2008年6月10日に散布、チャノキイロアザミウマの発生状況は少発生。

表3 各種ネオニコチノイド剤のチャノミドリヒメヨコバイに対する被害防止率

供 試 薬 剤	希釈倍率	被害芽率	被害防止率	効果判定
		(%)	(%)	
モスピランSL液剤	2,000	1.1	95.6	A
アドマイヤー顆粒水和剤	2,000	3.0	87.9	A
スタークル顆粒水溶剤	2,000	2.1	91.4	A
ダントツ水溶剤	2,000	1.8	92.7	A
バリアード顆粒水和剤	2,000	0.0	100.0	A
ワークワイド顆粒水和剤	2,000	1.3	94.7	A
無 処 理	—	15.7		

注) 2008年6月10日に薬剤散布、7月1日に採摘み調査を実施した。

注) チャノミドリヒメヨコバイの発生状況は少発生。

[その他]

・研究課題名

大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：「近江の茶」の高品質安定生産技術の確立

・研究担当者名：竹若与志一（H20）

・その他特記事項：特になし